

あなたの時計を壊す9つの原因

腕時計を一晩スマホに密着させてしまう

磁気を帯び、駆動が不安定となります。
その影響で精度異常が発生します。

正常かどうかの確認方法としては方位磁石を近づければ即座に判明します。
異常がある場合は「磁気抜き」を行う必要があるので要注意です。

強い衝撃を与えてしまう

強い衝撃が腕時計に加わると、内部の歯車の破損に影響します。
特に機械式時計は非常に細かな部品で構成されているので、大きな衝撃を与えてしまうと設計がずれてしまったり、パーツが破損してしまいます。

また、気をつけていただきたいのがブレスレットと一緒に身につける時です。
ブレスレットが緩いと大きく揺れ、時計自体に負荷がかかってしまいます。

水に濡らさない

みなさんご存知かと思いますが、水は厳禁。
腕時計は少量の水が内部に侵入しただけでも、故障につながります。
そして、防水機能がついている腕時計でも、経年とともに機能がおとろえるため、どんな時計も水に濡らさないよう気をつけましょう。

腕時計の「操作禁止時間帯」に操作

カレンダー機能付きの機械式時計には禁止時間帯と呼ばれる、日付変更をしてはいけない時間帯があります。

カレンダー操作の禁止時間は、メーカーやモデルによって異なりますが、ほとんどの腕時計では20時から4時までの8時間が操作禁止時間と定められています。

そして、無理に竜頭を回して日付を変更すると歯車が欠けるなどして故障に繋がってしまう危険性があるので要注意です。

※ただし一部のムーブメントでは禁止時間帯が夜の20時から翌朝の8時なのも覚えておいてください

高温多湿な場所での保管

湿気や気温の変化が大きい場所に時計を保管すると時計の内部機械が湿気でサビてしまう恐れがあります。

また、温度変化が大きい場所での保管は、時計の内部や文字盤に水滴が付着する原因です。時計内部の曇りは、放置すると内部の機械のサビや故障につながります。

時計の汚れを落とさず保管

1日中装着していると汗や皮脂、ホコリが付着し、そのまま放置すると変色や臭い、カビの原因になります。

なので腕時計を着けた後は、時計の汚れを毎回落とし、クロスでの拭き掃除と、陰干しでの自然乾燥だけでも行いましょう。柔らかい乾いたクロスで拭いたり自然乾燥をしたりすると、腕時計に付着した水分を除去でき、サビやカビの防止につながります。

年数が経つことによる油の劣化

長い時間空気中の酸素や湿気に触れていることで劣化が進み、不快な臭いを発したり、油が固まってきたりすることがあります。

そして、劣化した油は潤滑性能を損ない、部品同士の摩耗や摩擦を防ぐことが難しくなり、故障に繋がります。

そのため長期間放置していた腕時計は、使用したいときに電池交換しても動かない、ということが多々あるのです。

直射日光が当たる場所での保管

直射日光が当たる場所での保管は、油の劣化を早めます。

時計が熱くなり油の劣化が進むと共に、紫外線により文字板が焼けて変色する可能性があります。そして日焼けをして変色することで、時計本来の美しいデザインを失ってしまうことにもなりかねません。

メンテナンス、オーバーホールをしない

定期的に注油や破損部品の交換をしないと、突然の油切れや故障するリスクが高まります。

そしてメンテナンスは使用状況やブランドにもよりますが、一般的に機械式で3～5年に1度、電池式で4年に1度とされています。

大事な腕時計をいつまでも使用するには、定期的なメンテナンスは必須です。